

乾シイタケの中核的農林家の動向 (Ⅱ)

— 作物編成と乾シイタケ経営の比較分析 —

大分県きのこ研究指導センター 佐藤 宣子

1. はじめに

前報告で、乾シイタケの中核的農林家は近年、シイタケ生産の施設化と経営の複合化によって円高以降の外部条件の悪化に対応していることが明らかとなった。複合経営確立の重要性についてはこれまでも指摘されてきたが、生産費調査をふまえた分析はなされていない。そこで本報告では、第一に、中核的農林家36戸の経営形態別にみた存在形態の特徴について検討を行い、第二に、経営形態を異にする乾シイタケ経営の比較分析を行った。

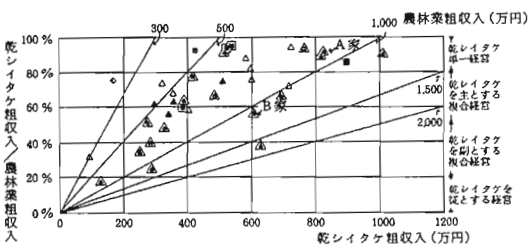
2. 中核的農林家の存在形態

(1) 経営形態の分類

図-1と図-2は横軸に1989年の乾シイタケの粗収入を、縦軸には乾シイタケ粗収入が農林業粗収入全体に占める比率をとり、農林家ごとに示したものである。乾シイタケの粗収入比率は総平均68.2%で、80%以上の「乾シイタケ単一経営」12戸、50~80%の「乾シイタケを主とする複合経営」17戸、20~50%の「乾シイタケを副とする複合経営」6戸、20%未満の「乾シイタケを従とする経営」1戸という構成である。

原点を通る直線上は農林業の粗収入が等しいことを表わしているが、大部分の農林家は500万円から1,000万円の間に含まれている(総平均は721万円)。

(2) 労働力保有と乾シイタケの経営形態



注：農林家の表示は次の基準によって分類している。
 ▲：50才未満の世帯主夫婦が専従
 △：世帯主は農林業が主で兼業にも従事、他に専従者がいる(妻なし親)
 □：世帯主、妻とも農林業が主で兼業にも従事
 ○：世帯主は兼業が主で農林業が従、50才未満の妻が専従
 ◆：世帯主は兼業が主で農林業が従、50才以上の妻が専従
 ●：50才未満の世帯主と親のみ専従
 ◆：50才の世帯主夫婦が専従

図-1 労働力保有形態別の乾シイタケ粗収入構成の散布図

図-1は農林家を労働力の保有形態別に分けて示している。最も家族労働力の保有が充実している二世帯専従の農林家では15戸中、単一経営が5戸であとの10戸は複合経営である。世帯主の就業形態が「農林業に主で兼業にも従事している」、いわゆる農閑期の兼業農林家5戸のうち4戸は単一経営である。また、「50代の世帯主夫婦のみが農林業に専従」の農林家は乾シイタケ収入の比率が高い。

(3) 作物編成と乾シイタケの経営形態

次に、図-2は作成の編成をみるために、乾シイタケ以外で最も粗収入の大きい作物別に農林家を分類して作図したものである。単一経営ではほとんどが米であるが、複合経営では、農林業粗収入が大きい農林家で米以外の作物の比重が高いことがわかる。

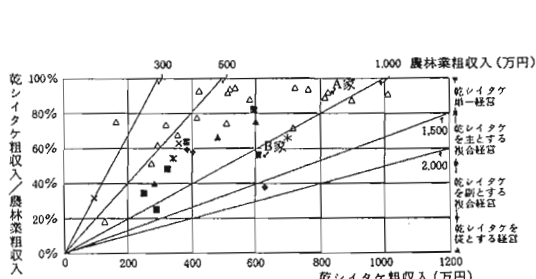
以上から、後継者を専従で確保している農林家は単一経営では概ね乾シイタケ粗生産額が800万円以上であること、複合経営では米とシイタケ以外の作物を導入している農林家であるといえる。

3. 乾シイタケ単一経営と複合経営の比較分析

(1) A家とB家の概況

単一経営と複合経営の中から記帳が正確に行われている二世帯専従の中核的農林家、A家とB家について分析を行った。調査農林家中での両家の位置は図に示しているとおりである。

A家は乾シイタケの粗収入が825.2万円で全体の92



注：農林家の表示は、乾シイタケ以外で最も粗生産額の大きい作物別である。
 △：米、▲：生シイタケ、●：畜産、◆：野菜、×：果樹
 *：シイタケ以外の林産物

図-2 作物編成別の乾シイタケ粗収入構成散布図

%を占める単一経営である(表-1)。世帯主は36才で、乾シイタケのハウス栽培を積極的に導入し、その栽培技術には定評のある農林家である。

一方、B家は乾シイタケの粗収入が608.7万円で全体の56.4%、他にトマト、用材(間伐材)、米、生シイタケ、畜産と典型的な複合経営であり、農林業粗収入は1,000万円を越えている。世帯主は43才で、来年からは長男も就農する予定である。

(2) 労働編成について

表-2, 3は経営部門別に月別の労働投入状況を示したものである。A家の乾シイタケ生産では、B家に比べ1~3月と12月の労働投入が多い。これはハウスの導入によって冬季の作業量が増加したため、労力の配分を計り、農繁期の雇用を控えるために親戚のブドウ農家と3年ほど前から手間替えを行っている。昔からあった地域内での労力過不足の調整方法であるが、複合化の一形態として注目される。しかし、月別の自家労働の収入は、12月が男女計で92人日なのに対して、7月が40人日とかなりのバラつきがみられる。

B家では、5月と10月に労働投入量が増加しているが、基本的にすべての作物を自家労力でこなしている。シイタケと米は世帯主を中心に4人で作業がなされているが、野菜は妻、畜産は父、自家野菜は母という具合に担当者が決められ、それぞれの作物の作業適期を逃がさないようにしている。

表-1 A家とB家に経営比較(1989年)

		A家	B家
土地保有面積	田 (a)	80	113
	畑	10	20
	クヌギ林 (ha)	11.5	6.9
	原野	0.0	1.0
	スギ林	1.4	20.6
	ヒノキ林	1.3	1.5
品目別粗収入	乾シイタケ (万円)	825.2	608.7
	生シイタケ		61.6
	米	69.1	86.7
	牛		40.0
	トマト		188.8
	用材		94.0
	計	894.3	1,078.8
	乾シイタケ割合	92.3%	56.4%
乾シイタケ経営分析			
1989年生産量	(kg)	1,824	1,610
用役ホダ木の年平均材積	(m ³)	98.4	84.9
m ² 当り生産量	(kg)	18.5	19.0
平均単価	(円)	4,530	3,971
m ² 当り粗収入		83,951	75,335
m ² 当り費用 (円)			
	雇用労働費	5,946	766
	原木代	16,471	16,511
	機械減価償却費	4,698	5,360
	種駒代	4,334	4,094
	動力光熱費	3,473	6,223
	その他物材費	3,520	2,096
	流通経費他	8,146	7,418
	地代	49	0
	計	46,536	42,468
1 m ² 当り農家所得		37,315	32,867
1 m ² 当り自家労働日数	(日)	4.19	3.55
1日当り農家所得	(円)	8,913	9,257
所得率1	(%)	44.4%	43.6%
年間農家所得1	(万円)	367.3	278.9
所得率2	(%)	49.0%	48.1%
年間農家所得2	(万円)	405.3	307.7

注: ①自家原木はm²当り12,000円と一律に見積もっている
 ②ホダ木の用役年数によるシイタケ発生量の違いを考慮して、1才木で40%、2才木で20%、3才木で10%の発生率があるとして原木代及び労働日数を計算している
 ③所得率1及び年間農家所得1とは自家原木を費用として差し引いた場合で、所得率2および年間農家所得2とは原木育成のための自家労働費を所得に含めた場合である

(3) 乾シイタケの生産費比較

乾シイタケのm²当たり生産費を比較すると(表-1), いずれも、m²当たり生産量は高く、所得率も40%を越え、更に自家労働1日当たりの農家所得も約9,000円と優良な経営である。しかし、その実現のための内容は非常に異なっている。

まず、kg当たり単価は、A家で4,530円と高価格を実現しているが、B家は3,971円である。原木1m²当たり費用では動力光熱費でA家の方が低いが、雇用労働費で5,000円以上も高くなっている。更に、労働投入が1m²当たりA家は4.19日に対してB家は3.55日と省力的である。すなわち、A家では高価格の追求、B家は低コスト化によって高収益をあげているといえる。

4. まとめ

二世専従の農林家は、単一経営で施設化をすすめているが、労力の配分面で無理をしており、今後集約化と同時に省力化のための技術開発が求められている。

経営的には、年間就労という点で複合経営はすぐれているが、複合すればよいというのではなく、B家のように確実に単位当たり収量をあげ、作物間の作業を調整して適期作業を行う経営管理能力が必要とされる。今後は、個別複合化の追求と同時に、それを補完する形での地域的な複合化も必要になると考えられるので、地域に視点をおいた分析を行いたい。

表-2 A家の年間労働投入状況(1989年)

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
乾シイタケ	自家男	51	41	32	27	35	24	13	23	19	22	28	60	373
	自家女	46	28	25	34	17	8	8	9	8	10	14	31	236
	加勢男	6	13	5	4									27
	加勢女	10	14	5	3									31
	雇用男	1												1
	雇用女	9	31	20	10									70
	小計男	58	54	37	30	35	24	13	23	19	22	28	60	401
	小計女	65	73	49	47	17	8	8	9	8	10	14	31	337
	米	自家男				4	5	1	2	3	15	3	1	32
		自家女				5	4	3	4	1	11	2	1	30
山林	自家男				5	1		5					10	
	自家女												0	
自家野菜	自家男												0	
	自家女	1											43	
その他	自家男		2	1		1	1	2	3	4			14	
	自家女												2	
加勢出	自家男				13	7	2	7	2	1			31	
	自家女				7	6	1	8	3				24	
自家労働計	男	51	43	46	38	42	36	18	33	26	37	31	61	
	女	47	28	37	46	29	25	22	20	8	23	18	31	

資料: A家労働日誌より作成
 注: ①自家原木の育成労働(クヌギ林の下刈等)はしいたけ部門に入れている
 ②加勢出とは親戚のブドウ農家との手間替えである
 ③その他とは研修会の出席等である

表-3 B家の年間労働投入状況(1989年)

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	うち世帯主	うち父母
乾シイタケ	自家男	22	30	33	25	4	8	3	9	18	27	21	6	208	111	96
	自家女	17	23	20	18	3	2			3	15	9	6	118	93	25
	雇用男													1	-	-
	雇用女													2	-	-
米	自家男				8	16	11	4	2	1	14	1	7	66	34	32
	自家女				2	6	7				10		1	27	21	7
野菜	自家男				4	15	24	9	15	10	3	1	4	86	69	18
	自家女				1	2	10	16	24	16	2	6	4	126	121	6
畜産	自家男	4	4	4	3	5	4	7	10	7	7	3	3	61	14	47
	自家女	0	1	1	1									2	7	4
自家野菜	自家男				1	1	2	1	1	4	2	13	5	8		
	自家女	1	1	1	3	12	5	6	7		1	6	4	47	12	35
山林	自家男	2	3			1				1	1	2	2	11	45	11
	自家女	5	3			1	6	5	4	5	3	2	6	8	48	11
自家労働計	男	36	41	41	53	59	43	37	42	36	54	43	39	523	277	245
	女	20	28	23	35	40	31	29	30	21	30	24	18	330	260	70

資料: B家労働日誌より作成
 注: 自家原木の育成労働(クヌギ林の下刈等)はしいたけ部門に入れている